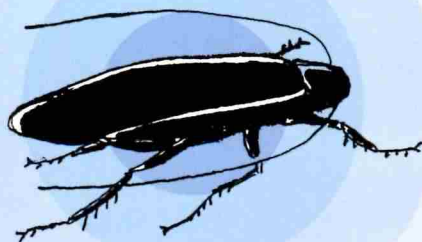


8. 家のなかのむし



クログキブリ (ゴキブリ科)

●よく見られる時期 一年中 ●大きさ 25~30mm



(卵しょう)

家の中でふつうに見られるゴキブリがクログキブリです。ゴキブリという名前は、食器などのかくれていて顔を出すことから「^きご器かぶり」と呼ばれたことに由来^{ゆらい}します。

もともと暖かい地方に住んでいて、野外の森や林の落ち葉の下などで生活するものが多くいます。クログキブリのように人間と共に生活するようになった種類もいます。油をぬったように黒く光る体や長いヒゲのような^{しよっかく}触角を持ち、夜行性のため人間に^{きら}嫌われる虫になったようです。

ニクバエの一種 (ニクバエ科)

●よく見られる時期 一年中 ●大きさ 9~10mm



最近では、イエバエなどのハエは見かけることが少なくなりましたが、生ゴミなどを外に出して放っておくと、すぐにハエのなかまがやってきて卵を産みつけます。

食べ物の上や動物のフンの上などにとまるので、衛生上よくないという理由で嫌われています。しかし、止まっているときに、手や足や顔などをこすってきれいにしてしている様子は、大変ユーモラスで見っていてあきません。

ヒトスジシマカ

●よく見られる時期 7月～9月 ●大きさ 約4.5mm



蚊柱^{かばしら}といって、夏から秋にかけて川原の堤防や田のまわりに集まって柱状に群がっているのが見られます。しかし、これは力ではなくユスリカの集りです。

力は、動物の体温や炭酸ガスに反応して集まってきますが、ヒトや動物の血を吸うのはメスだけです。イヌやネコなどにフィラリアという病気、人に日本脳炎などの恐ろしい病気を伝染させる種類もあるので、気をつけなければなりません。

ヤマトシロアリ (ミゾガシラシロアリ科)

●よく見られる時期 一年中 羽アリは5月 ●大きさ 3.5~6mm



シロアリはアリのなかまではなくて、ゴキブリに近いなかまです。家の柱などの木を食べたりするので、大変困る虫ですが、自然の中では倒れた木などを分解するのに役に立っているのです。

葉にとまるキンバエ

